

# パフォーマンスハイライト

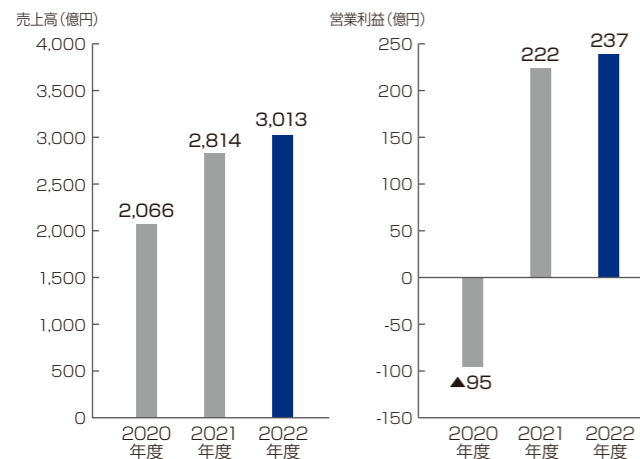
## シチズングループの財務実績

2022年度は、国内経済では物価上昇の影響等を受けながらも、経済活動の正常化に伴い個人消費は引き続き緩やかな持ち直しの動きが見られました。また、北米および欧州市場では、地政学的な要因による情勢不安ならびに資源価格高騰によるインフレなど不確実性の高い状況で推移し景気後退懸念が高まりましたが、個人消費は堅調さを保ちました。アジア市場のうち中国はゼロコロナ

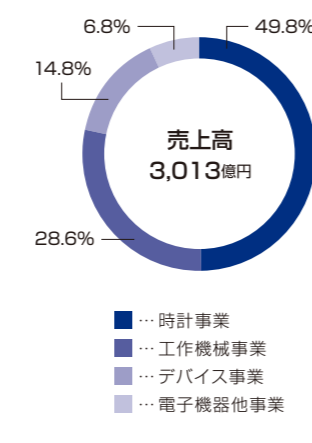
政策からの転換が図られたものの停滞感の強い展開となったほか、その他のアジア地域も急激な物価上昇の影響を受け、経済回復は弱いものに留まりました。

その結果、売上高は3,013億円、営業利益は237億円と増収増益となりました。また、経常利益は290億円、親会社株主に帰属する当期純利益は218億円となりました。

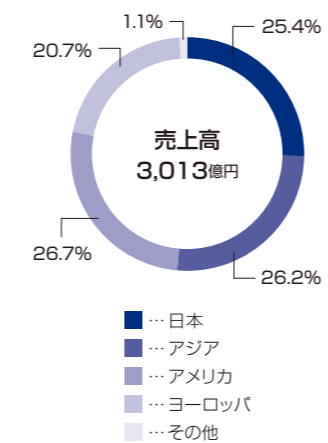
### 収益性情報



### 事業別売上高比率



### 地域別売上高比率



2023年3月末時点

## シチズングループの非財務実績

「シチズングループ行動憲章」の翻訳言語数	10 言語
CDPサプライヤーエンゲージメント評価	リーダーボード 選定
人権eラーニング国内グループ従業員受講率	99.6%
海外環境法規制モニタリング数	1,697 件
「持続可能な調達」取引先実態調査数	約 14 社

そのほか、詳細なCSRデータについてはwebサイトにてご確認ください。  
<https://www.citizen.co.jp/social/data/index.html>

# シチズングループの今

国産の時計をつくりたいとの想いで1918年に創業してから100年を超える年月の中で、シチズングループは

幅広い事業へ発展してきました。世界の人々の暮らしに広く貢献している4つの事業の概要をご紹介します。

### 時計事業

米国市場ミドルレンジシェアトップクラス  
ムーブメント販売世界トップクラス

「Better Starts Now」 「どんな時であろうと「今」をスタートだと考えて行動する限り、私たちは絶えず何かをより良くしていけるのだ」という信念のもと、世界に先駆けて開発した光発電技術「エコ・ドライブ」や、最先端のGPS衛星電波時計など、時計の未来を切りひらいてきました。世界でも数少ない、部品から完成時計まで自社で一貫生産を行うことができるマニファクチュールです。

主な事業会社 シチズン時計株式会社、シチズン時計マニファクチャリング株式会社、シチズンリテイリング株式会社、シチズンTIC株式会社

### 工作機械事業

中・小型CNC自動旋盤  
世界シェアトップクラス

小さく高い精度が要求される時計の部品製造で培った技術やノウハウを活用し、1936年より工作機械の生産を開始。自動車、医療、IT関連業界向けなど幅広い分野で必要不可欠な部品を生み出す工作機械は、世界中の製造業の発展に貢献しています。

主な事業会社 シチズンマシナリー株式会社



### デバイス事業

独自のコア技術を高付加価値製品へ応用

時計製造で培った「小型化」「精密加工」「低消費電力」の基幹技術を活用し、社会を支えるさまざまな電子機器に製品を提供しています。製品の低消費電力化と長寿命化を可能にし、人々の生活をより便利で快適にするだけでなく、地球環境への負担軽減にも貢献しています。

主な事業会社 シチズンファインデバイス株式会社、シチズン電子株式会社、シチズンマイクロ株式会社、シチズン千葉精密株式会社、株式会社フジミ、シチズン電子タイムル株式会社

### 電子機器他事業

小型精密技術の応用展開

時計製造で培った「小型化」「精密加工」「低消費電力」の技術を活用してつくったPOS・バーコードプリンター、高精細デジタルフォトリソグラフィは社会のさまざまな場面で活躍しています。また、そのコア技術をさらに発展させた電子血圧計・電子体温計・歩数計は、人々の健やかな暮らしづくりに貢献しています。

主な事業会社 シチズン・システムズ株式会社、株式会社東京美術

## シチズングループの海外展開

創業者の国産時計をつくりたいという想いから始まったシチズン時計は、小型化・自動化技術・精密加工・低消費電力といったシチズンの技術力を活かし、意欲的に

海外展開を進めています。今や海外子会社64社、海外売上高比率74%と、確かな技術とニーズに応える製品・サービスを通じて世界の人々の生活に貢献しています。

### 地域別売上高推移(億円)

